

2-7 高等学校卒業程度認定試験の合格科目に係る学修の単位認定

高等学校卒業程度認定試験については、第1章の「卒業証書」(1-7)でも述べたように、この試験に合格するだけでは、高等学校の卒業資格を得ることはできませんが、高等学校に在籍していて、この試験に合格した場合、その科目を自校の科目の履修とみなして、単位の修得を認めることができる、というのがこの制度です。

ただし、単位認定の対象とする試験科目の範囲や認定方法等は、「各学校において適切に判断する」とされており、例えば、「生徒が現に高等学校において履修中の科目を対象とするか、高等学校卒業程度認定試験においてどのような評点での合格を要件とするか」など、具体的な範囲や認定方法は、学校ごとに決めることになっています。

高等学校卒業程度認定試験は、例年8月と11月の年2回試験が行われていますが、2025(令和7)年度は、第1回目が8月7日・8日、第2回目が11月8日・9日が実施日となっています。本章の「技能審査の成果の単位認定」(2-5)で、前期に単位が修得できなかったが、何とか当該年度に卒業したいという場合、後期から手続きを進めて唯一単位認定に結びつくのが技能審査の制度である、と述べました。高等学校卒業程度認定試験の第2回目は11月だから、後期からでも十分間に合うのではないかなと思うかもしれませんが、第2回目の願書の受付期間は7月22日から9月12日となっています。

この制度による単位認定が認められている場合には、前期に授業に出ることができずに、前期の単位を修得できる見込みが少ないという場合は、とりあえず、高等学校卒業程度認定試験の願書を提出しておけば、第2回目の試験を受けることができますが、前期の成績が確定するのは通常、9月中旬以降となるため、それを待ってから出願するのでは間に合いません。これに対して、技能審査の実用英語検定試験は、年3回試験が行われ、個人で申し込みを行う場合は、2025(令和7)年度の第3回目の一次試験は2026(令和8)年1月25日で、申込期間は10月31日から12月15日となっているため、前期の成績が確定した後に申し込みを行っても十分間に合います。

ちなみに、高等学校卒業程度認定試験は、何度でも受験することができ、問題は主として多肢選択による客観式の検査方法により出題され、マークシート方式で解答するようになっています。2024(令和6)年度に行われた2回の試験の受験者は合わせて15,585人で、合格者は7,748人(全体の49.7%)、一部科目合格者は6,422人(全体の41.2%)でした。つまり、1科目以上の合格者は90.9%で、問題は決して難しくなく、しっかり時間をかけて準備すれば十分合格できるレベルの試験です。

高等学校卒業程度認定試験の試験科目（ただし、経過措置により、試験科目名が異なっている場合がある）

試験科目の 属する教科	試験科目	対応する高等学校の科目
国語	国語	現代の国語及び言語文化
地理歴史	地理	地理総合
	歴史	歴史総合
公民	公共	公共
数学	数学	数学Ⅰ
理科	科学と人間生活	科学と人間生活
	物理基礎	物理基礎
	化学基礎	化学基礎
	生物基礎	生物基礎
	地学基礎	地学基礎
外国語	英語	英語コミュニケーションⅠ又は学校設定科目 として設けられた英語以外の外国語